

## 平成30年第11回花巻市教育委員会議（定例会）議事録

### 1. 開催日時

開会 平成30年8月20日（月） 午前 9時30分

閉会 平成30年8月20日（月） 午前11時15分

### 2. 開催場所

石鳥谷総合支所 3-2、3-3会議室

### 3. 出席委員（6名）

教育長 佐藤 勝

委員 中村 弘樹

委員 照井 善耕

委員 伊藤 明子

委員 役重 眞喜子

委員 衣更着 潤

### 4. 説明のため出席した職員

教育部長 布臺 一郎

教育企画課長 岩間 裕子

学務管理課長 熊谷 直樹

学校教育課長 中村 哲

こども課 今井 岳彦

文化財課長 平野 克則

### 5. 書記

教育企画課 課長補佐 佐々木英智 係長 大竹誠治

主査 佐々木晶子（書記）

○佐藤勝教育長 ただ今から、平成30年第11回花巻市教育委員会議を開会いたします。会議の日時、平成30年8月20日、午前9時30分。会議の場所、石鳥谷総合支所3-2、3-3会議室。日程第1、会期の決定であります。本日一日とすることに御異議ありませんか。

（異議なしの声）

○佐藤勝教育長 それでは、異議なしと認め本日一日と決定いたします。

日程第2、議事に入ります。議案第25号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び

執行の状況の点検及び評価に関し議決を求めることについて」を議題といたします。事務局から提案内容の説明を求めます。布臺教育部長。

○布臺一郎教育部長 議案第25号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関し議決を求めることについて」を御説明申し上げます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととなっておりますことから、本委員会におきまして議決を求めるものであります。なお、この点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされておりますことから、去る8月6日に開催いたしました花巻市教育振興審議会に花巻市教育振興基本計画に基づく、平成29年度主要事業の実施状況についてお諮りし、各委員から御意見をいただき点検・評価を行ったところであります。点検・評価の結果につきましては別紙「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書」のとおりであります。

議案第25号資料を御参照いただきたいと思います。1ページ目に、この点検・評価についての根拠法令を載せておりますが、昨年度、評価に関する部分に文章表記があったほうがよいのではないかと御意見をいただきました。それを受けまして、本年度から評価の部分につきましては、決算の数字だけではなく、文章でもって評価をすることに改めたところでございます。

それでは、内容に移らせていただきます。2ページをお開きいただきたいと思います。子育て環境の充実でございます。基本方針は、「子育てに喜びを感じ、安心して健やかな成長を育むまち」でございます。以下、それぞれの事業について表記をしておりますが、新規事業を中心に説明をいたしたいと存じます。

(1) 子育て支援の充実でございます。No.5の病後児保育事業は新規事業でございます。傷病の回復期にある児童で、保護者の都合により家庭で保育困難な児童を一時的に保育するものでございます。決算額は859万6,000円でございます。

3ページに移ります。(3) 就学前教育の充実、No.3の保育所保育環境充実事業でございます。こちらの通常の業務に加えまして、小規模保育園施設整備としてはなまきポラン保育園を、昨年度施工したところであります。続きまして、No.5こども発達相談センター整備事業でございます。老朽化が進んでいるこども発達相談センターの新築整備を行う改築工事を完了したところであります。決算額は9,639万円でございます。

4ページ目に移ります。こちら、成果指標を御覧いただきたいと思います。まちづくり市民アンケートでございますが、「子育てしやすいまちと感じる市民の割合」は現状値55.7%、30年度の実績値は58.3%でございます。その下に、先ほど申し上げました文章表記がございます。1. 子育て環境の充実についての評価ですが、「安心して子供を産み育てることができる環境づくりを推進するため、待機児童の解消を最大の目標とし、民間保育施設整備への補助や保育士資格を有する方の再就職支援、子育て支援員研修などを実施したが、結果として平成28年度に26人であった待機児童が、平成29年度には96

人に増加した。これは国が短時間就労の場合も保育所入所を認める要件の拡充を行ったことが原因と考えられる。このことは、前述した取り組みが待機児童の増加抑制につながったものと判断することが可能であり、今後も保育士確保策の推進や保育施設の整備を行っていく必要がある。また、保護者が抱える育児に関する様々な不安を解消するため、病後児保育室の設置や老朽化したこども発達相談センターの改築のほか、地域子育て支援センターでの育児相談や子育て支援情報ネットワーク研修会の開催等に取り組んだ。このうち、病後児保育室については、昨年7月に開設したことから、7月から3月までのものでございますが、延べ75人の利用があり、保護者のニーズに対応した取り組みであったと考える。さらに市の独自施策として第3子以降保育料等負担軽減事業を実施し、277人に対し補助を行うことで多子世帯の経済的な負担軽減を図るなど、子育て環境の充実に向けた様々な事業を実施したことが、成果指標の向上につながったものと思われる」という内容でございます。

続きまして、学校教育の充実でございます。5ページをお開きいただきたいと思います。基本方針は、「子どもたちが、夢と希望を持ち、たくましく、生き生きと育つまち」でございます。ここでは「児童生徒の学力・体力向上」と「豊かな人間性の育成」、「特別支援体制の充実」という3つの柱を掲げておりますが、(1)学力の向上のNo.1学力向上推進事業につきましては決算額が1,596万6,000円でございます。No.2のまなび交流学习事業は22万4,000円。No.3の指導運営事業は829万5,000円。No.4の教科用図書採択事業は4万円でございます。

6ページに移ります。(2)体力の向上、No.1の体力向上実践推進事業は24万3,000円の決算額でございます。No.2の小中学校スポーツ振興事業は395万円でございます。(3)豊かな人間性の育成のNo.1の児童・生徒表彰事業の決算額は52万5,000円。No.2の生徒会ボランティア活動支援事業は22万円。No.3の復興教育学校支援事業は63万7,000円。No.4の地域体験型学習事業は589万6,000円。No.5の国際化教育推進事業の小学校の分は842万5,000円。No.6の国際化教育推進事業、中学校分は1,726万9,000円の決算額でございます。(4)個に応じた支援体制の充実、No.1特別支援事業の決算額は6,275万7,000円でございます。

7ページに移ります。(5)学校保健の充実、学校保健事業の決算額6,329万5,000円でございます。(6)教育環境の充実、No.1の小中学校学区再編成等調査事業の決算額34万円でございます。No.2の私立高校振興事業は324万円でございます。No.3の県立大迫高等学校生徒確保対策協議会事業補助金は85万円。No.4の小学校施設維持事業は2億3,179万円でございます。No.5の中学校施設維持事業は7,159万6,000円でございます。No.6の湯口中学校校舎改築事業は5億3876万1,000円でございます。No.7の大迫中学校校舎改築事業は7億7,928万円でございます。

8ページにまいります。No.8の学校安全確保事業の決算額は48万円でございます。No.9の育英事業は150万2,000円でございます。No.10の学校給食施設基本方針策定事業の決算額はゼロということでございます。No.11の学校給食センター整備事業は大迫学校給食センター整備事業でございます。2億2,770万8,000円の決算額でござ

ございます。こちら平成29年度に事業を完了したものでございます。No.12の奨学金活用人材確保支援事業は32万2,000円の決算額でございます。No.13の学校地域連携推進事業は281万2,000円。No.14の小中連携推進事業は6万3,000円でございます。No.15の学校図書館支援事業、245万6,000円でございます。

9ページにまいります。成果指標は岩手県学習定着度状況調査からの数字でございます。「将来の夢や就きたい仕事など具体的な目標を持っている児童生徒の割合」について、小学校の現状値が85%、29年度の実績値は88%。中学生は現状値が69%、実績が76%となっております。「運動やスポーツが好きな児童生徒の割合」は、小学校の現状値が84%、実績が94%。中学校が82%、実績値が86%。「自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合」は、小学校の現状値が78%、実績値が79%。中学校では現状値が66%、実績値が76%でございます。「児童生徒の学力の定着状況」につきましては県平均を100とした場合、小学校の現状値が105、実績が101。中学校の現状値が99、実績が100となっております。学校教育の充実についての評価であります。 「学力向上については、平成29年度岩手県学習定着度状況調査の結果によると、小学校では算数が前年度より2%上昇し、県平均と比較しても2%上回った。社会、理科も県平均を上回っており、国語を除いてはおおむね好ましい状況。中学校は、国語、社会、理科が県平均を上回り、英語は同等、数学が1%下回った。特に数学は前年度から3%下落しており課題が残る。中学校外国語教育推進事業については、平成29年度から英語検定の検定料の助成を開始したところ、英検受験者数と3級所持者数の割合が前年度の約2倍となり、生徒の語学力向上につながった。体力向上については、平成28年度に引き続き取り組んだ体力向上実践推進事業により、1年目は短距離走のタイムや泳法の技術が向上したが、2年目は敏捷性や柔軟性に伸びが見られたほか、体育の授業以外の業間や昼休みにも体を動かす児童が増加した。学習定着度状況調査によると、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合は増加傾向であることから、基礎体力の向上を目指し、今後も体力・運動能力に課題を抱える児童が多い学校に重点的に取り組んでいく。学校における地域体験型学習やキャリア教育の実践は、住んでいる地域をより深く知る体験を重ねるとともに、自己の将来を考え、職業感を醸成することで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感が高まった。」という内容でございます。

続きまして、芸術文化の振興に移ります。10ページをお開きいただきたいと思います。こちらの基本方針は「市民が、地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しむまち」でございます。(1)芸術文化活動の推進でございます。No.1の学校文化活動事業の決算額は47万8,000円でございます。(2)民俗芸能の伝承、No.1の民俗芸能伝承支援事業の決算額は228万1,000円でございます。(4)文化財の保護と活用、No.1の文化財保護活用事業は1,101万3,000円でございます。No.2の文化財保護活用事業は5,274万9,000円でございます。こちらは、熊谷家の改修事業、地盤補強工事及び屋根葺き替え工事を完了したものでございます。続きまして、No.3埋蔵文化財保護活用事業2,902万5,000円でございます。No.4の展示活動事業は978万3,000円でございます。No.5の教育普及活動事業は202万7,000円でございます。成果指標はまちづくり市民アンケートからのものでございます。「郷土の歴史・文化に対する

誇りや愛着を持つ市民の割合」の現状値が62.5%、実績が67.3%でございます。芸術文化の振興についての評価は、「民俗芸能の伝承については、郷土芸能の保存を図るため、各種郷土芸能鑑賞会を開催しており、公演事業の入場者数は平成28年度1,280人に対し29年度は1,880人と増加傾向にある。特に、古民家活用郷土芸能鑑賞会は、熊谷家の屋根葺替え工事後のお披露目を兼ねて開催したこともあり例年より多い来場者であった。事業実施により、伝承活動が確保されるとともに、観光イベントを創出し、地域振興にも成果があった。文化財の保護と活用については、文化財セミナーや自然観察会、埋蔵文化財講演会等を実施し、埋蔵文化財関係講座等受講者数は、平成28年度2,315人に対して、29年度は2,151人であった。微減であるものの、指標の目標値である1,500人を大幅に上回っており、市民の文化財に対する関心の高さがうかがわれた。今後も文化財愛護意識の高揚を図るため、各種の鑑賞会や講座等を開催することとしている。博物館の入館者数については平成28年度比較して5,000人超減少した。これは、平成28年度の「発明王エジソン展」のような特別展を実施しなかったことによる影響と考えられる。各種講座やセミナーについては、調査研究テーマをわかりやすく説明したことや、外部講師を招いたものに好評を得ており、参加者も年々増加傾向にある。博物館資料を活用した学習メニューの充実を図った結果、市内各小中学校での出前授業や見学学習を行う学校が増えた。これは、学芸員が各校の担当教諭と連携を密に図りながら、共通で学べるものに加え、それぞれの学校の地域特性を盛り込んだ内容としたことで、興味や関心を高めたことが要因と考えている。今後については、常設展の展示内容をリニューアルするとともに、特色ある企画展の開催、博学連携の取り組みの強化により、さらなる魅力アップに努め、郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合を高めていきたい。」という内容でございます。

次のページをお開きいただきたいと思います。学校開放事業でございます。まず小学校の分でございますが、平成28年度の開放回数が6,176回、利用者数が、16万9,235人であるのに対し、平成29年度は開放回数が6,825回、利用者数が17万3,107人ということで、比較増減で申しますと、開放回数が649回の増、利用者数が3,872人の増でございました。一方、中学校でございますが、平成28年の開放回数4,613回、利用者数は8万2,620人に対し開放回数が4,035回、利用者数が7万7,810人ということで開放回数が578回の減、利用者数が4,810人の減となっております。小中学校合計につきましては、御覧のとおり、29年度の開放回数が1万860回、利用者数25万917人ということで開放回数71回の増ですが、利用者数については938人の減となったところでございます。

最後に、施設利用状況等についてでございます。花巻総合文化財センター利用状況でございます。29年度の入館者数は3,263人ということで、前年に比べて、1,777人の減となっております。大迫郷土文化保存伝習館利用状況でございます。29年度入館者数892人ございまして、175人の増でございます。石鳥谷農業伝承館利用状況でございます。入館者数、1,395人ございまして、236人の減でございます。花巻市博物館利用状況、29年度入館者数は1万3,950人ございまして、前年度に比べて5,242人の減でございます。石鳥谷歴史民俗資料館利用状況、29年度1,261

人で前年度に比べまして167人の減でございます。東和ふるさと歴史資料館につきましては、平成27年4月1日から当分の間休館としているものでございます。以上で説明を終わらせていただきます。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いを申し上げます。

○佐藤勝教育長 ただ今、事務局から説明を受けましたが量が多いので区切りながら質疑を受けてまいります。子育て環境の充実について質疑の方ございましたらお願いいたします。照井委員。

○照井善耕委員 (3) 就学前教育の充実のNo.3 保育所保育環境充実事業について、はなまきポラン保育園が新しく開設されたわけですが、かなり暑い日が続いておりますので冷房はしているのでしょうか、何か利用者の方から御要望とかあるいは環境整備についてのお話はなかったのでしょうか。

○今井岳彦こども課長 答えいたします。ポラン保育園につきましては、全館冷房が入っておりますので、暑さということでは特に要望等はございませんし、環境部分についても順調に運営しております、特に要望というのは出てございません。

○照井善耕委員 ほかの施設で四輪のリアカーみたいなのに子ども達を乗せて散歩をしているんですけど、そのように保育所から出て保育することも保育所の事業や計画の中にあるのですか。

○今井岳彦こども課長 近くの児童公園等を利用して遊ぶことはありますけれども、天候とか条件に応じて本当に暑い時は中で対応しております。基本的には外で遊ぶといいますが、そういうことは、当然その中に入っております。

○照井善耕委員 ありがとうございます。

○佐藤勝教育長 ほかにございませんか。それでは、学校教育の充実について質疑がありましたらお願いします。役重委員。

○役重眞喜子委員 学校教育に関して29年度は、湯口中、大迫中、それから、大迫学校給食センターということで、かなり膨大なハード事業があったと思っています。限られた体制の中で大変頑張って成果を上げていただいたんじゃないかなと思います。成果指標を見ても、おおむね上向きということもありますし、この指標のとり方を昨年、一昨年と私も気になったことを御提言してきたところですが、この4つの指標の中に、いわゆる学校教育の目標である知・徳・体という部分を意識して設定をされているのかなということで、これも適切じゃないかなと感じました。1カ所、評価の中で小学校の算数、社会、理科が県平均を上回るということで、国語を除いてはおおむね好ましい状況とありますが、29

年度の実績は105%から101%に若干ダウンしておりますので、この要因というのは国語力の低下というふうに、分析をされているということでしょうか。そこをお伺いしたいと思います。

○佐藤勝教育長 中村学校教育課長

○中村哲学校教育課長 はい。お答えいたします。小学校については、全国あるいは県平均と比べても、ほとんど平均並みの指標でしたが、国語の学習定着状況においては応用的な問題に関して、若干読み取り等が低かったと捉えております。その部分については今後、学校と協議しながら、指導のあり方も含めて検討していきたいと思っております。

○佐藤勝教育長 ほかにございませんか。照井委員。

○照井善耕委員 「英検の受験者数と3級所持者数の割合が前年度に比べ約2倍」という表現ですけど、これは受験者数も3級所持者数も割合が2倍となったって意味ですか。

○佐藤勝教育長 中村学校教育課長。

○中村哲学校教育課長 お答えいたします。英検の28年度と29年度の比較ということでお話をさせていただきます。市内の3年生でございますが、英検を受験した生徒は平成28年度356人、全体の39%でございます。それが、29年度には679人、78%、ということで39%の増となっております。パーセント的に見ればこれが倍と捉えられるかと思えます。そのうち、英検3級以上を取得している生徒が、平成28年度は109人で12%、29年度が222人で26%ということで、これも14%増ということでこちらもパーセンテージ的には倍増と捉えております。

○照井善耕委員 はい。わかりました。

○伊藤明子委員 すみません。今の照井委員の質問につけ加えて。パーセンテージが上がったというのは、3級を取れる子が今まではあまり受けなかったということになるのでしょうか、それとも、特別にお勉強をさせたということになるのでしょうか。

○中村哲学校教育課長 お答えいたします。英検の補助が年1回に限りということで学校が積極的に声をかけて受験者数を増やしたというのは当然あると思っております。そのため、市内の中学校では89%という高い受験者数でございます。これは、今までは考えられなかったことです。だいたい私費で3割、4割程度が受けておりましたけれども、公費、補助ということもありまして、学校でもそれを受けて積極的に声をかけていただいた結果、受験者数も伸びたので当然、取得率も伸びたと考えております。

○佐藤勝教育長 ほかにございませんでしょうか。衣更着委員。

○衣更着潤委員 先ほども指標のお話がありましたが、成果指標、学習定着の現状値が平成26年度でありますけども、前年度比の形で算出することは難しいのでしょうか。あと、26年度というのは26年度単年度なのか、今までの平均なのかお伺いいたします。

あと、中学校の改築の繰越金がありますが、そのうち、28年度からの繰越が予算額に対して決算額が何百万と差異があるのは何が原因なのか、どういうものから起こるのかという2点についてお願いいたします。

○佐藤勝教育長 岩間教育企画課長。

○岩間裕子教育企画課長 成果指標についてお答えいたします。基本的に成果指標は計画を立てた際の数値と計画終了年度における目標値を定めることになっております。29年度実績値はその中間点で、今年度はこういう状況になったというものでありまして、前年度との対比で考えるというよりは最初と最後がどうなるかという部分で、本年度の状況を示す形になっております。前年度の対比等を出すことは可能ですけれども、基本的な考え方としては32年度に向けてどういう動きになってくるかというところをお示ししたいということになります。あと、学習定着度状況調査、平成26年度の現状値ですけれども、この通り、26年度の調査の結果がどうであったかという数値を示しているものでありまして、それまでの平均値ではございません。27年度、28年度、29年度と経年でお示することも可能ですので、そういう示し方のほうが望ましいということであれば、それについては検討させていただきたいと思います。それから先ほどの繰越部分での数字が違っているということですが、基本的に工事ですので、入札の部分で差が生じていると御理解いただければと思います。

○佐藤勝教育長 中村委員。

○中村弘樹委員 学力向上について、岩手県の平均を見ると花巻市はちょっと良いほうだと思うんですけども、全国から見た岩手県の学力はどの位置になるのでしょうか。全国を見て、岩手が真ん中だったら全国の真ん中辺り、岩手県が上のほうだったら全国でも上のほうという感じになると思うのですが、全国から見てどういう状況なのでしょうか。

○佐藤勝教育長 中村学校教育課長。

○中村哲学校教育課長 今、手元には平成30年度の資料しかないので、そちらのほうでお答えをいたしますが、小学校では、全国、県とほとんど同じですので、位置ということであれば本当に平均的な状況になっております。中学校におきましては、県よりも若干、市のほうが上回っております、平均点でいうと100パーセント中の1%から2%程度上回っているという状況ですが、全国的な平均からいうと、国語については、1%から3%



上回っておりますが、数学に関しては2%から3%低い状況ですので、全国的には数学はやはり下のほうではないかと考えております。

○佐藤勝教育長 参考までに、県の学習定着度状況調査を受けたのは中学2年生ですが、この子達の今年4月の全国学力テストの結果を申しますと、数学は県の平均を超えていますが全体に見ると全国よりも2ないし3%低い状況です。ただ、以前は県の学力よりも数学がマイナス4から5%でしたので、全体的には向上傾向にあると考えています。ただ、全国に比べると数学に課題がある状況です。小学校で全国並みの数値を示した子供たちが中学校になるとつまづきが多く見られる状況にあるということです。

ほかに何かございますか。照井委員。

○照井善耕委員 学力向上の件ですけれども、小学校と中学校の学力の関連といたしますか、例えば、分数について、小学校の段階できちとした指導がされて基礎的なものが身についていれば、中学校に進んだときにこの分野をもっと向上できるとか何かそういう関連させた分析っていうのは今はやられているんですか。

○佐藤勝教育長 中村学校教育課長。

○中村哲学校教育課長 まだ分析の途中ではありますが、平成30年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査の中で、反復練習の時間が全国からすると非常に少ないというデータが出ておりました。まず、その部分で家庭学習、それから、学校の授業時間、学校全体の放課後等も使った反復練習、その部分は明らかに時間が足りないということが課題となっているのではないかなというのがございます。問題の分析はまだ途中ということで御理解いただきたいと思います。

○佐藤勝教育長 中学校で驚くように低かったのが、座標の「座標軸で2と-3の座標のポイントを入れなさい」という問題でして、これが半分できてないですから小中の関連もあります、中学校の関数辺りがやはり大きな課題なのかと思います。

○照井善耕委員 最近の中学生と話をする機会もあるんですけども、テストを見直した時に、完璧にわかるところに「○」、中途半端なところに「△」、全然分からなかったところに「×」と印をつけてみたときにどれから勉強やり直すかという、「×」印から勉強する子が結構多いんです。ところが、結局、持続しなくて行き倒れになってしまっているんです。だから、必ず見直しをして「△」の部分を実に勉強をやったらいんじゃないかという話をするわけですけども。同じことを反復するというよりも、1回トライして失敗したものはどうするのか、たまたま「○」がついたけど自信のないところをどうしようとか、そういう意味での主体的な反復練習に持っていくことが、特に中学生には必要なんじゃないかなって思いました。一応参考までに。

○佐藤勝教育長 御意見として承ります。

ほかにございませんか。伊藤委員。

○伊藤明子委員 家庭学習の時間が少ないという話でございましたけれども、それはクラブ活動と関連はあるのでしょうか。

○佐藤勝教育長 中村学校教育課長。

○中村哲学校教育課長 明確にクラブ時間が長いために家庭学習ができなかったというようなものではございませんが、家庭学習についてアンケートを取りましたところ、「十分とれていない」と答えた生徒が大体4割程度おりました。そのうち、「十分とれていない」という理由の中に、部活、あるいはゲームをやっている、テレビを見ているというのが大体、12%前後ずつあったということで、要因の一つにはなっているけれども、それが絶対的な理由とまではいっていないと捉えております。

○伊藤明子委員 わかりました。

○佐藤勝教育長 家庭学習のやり方が中学校で定着していません。指導はするけれども実際こうやって家庭学習をやるんだよっていう型ができていないという子が多いです。そして、テレビやゲームをすると時間が無くなる、そういう傾向が示されております。

ほかにございませんか。それでは、次に芸術文化の振興に移ります。質疑ございませんか。役重委員。

○役重眞喜子委員 芸術文化の振興の全体的な成果として、郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着をもつ市民の割合が62.5%から67.3%に上がっているということで、これ非常に大事なことでありますので良い傾向だと感じました。この数年来、あるいは合併以降の全体の傾向は把握していらっしゃるのかどうか、今回たまたま上がっているのか、それとも、全体的に上がってきている状況なのかという点をお聞きしたいですし、あと、この成果には、取り組みの地道な積み重ねが後ろにあるんだろうなと思っていて、地域の取り組みのどういう部分が成果につながっているか考えるときに、例えば、地域別の傾向のクロス集計、あるいは世代別の集計とか地域の取り組みが直結する指標だと思うので、そういう分析をされていたら教えていただきたいと思っております。以上です。

○佐藤勝教育長 平野文化財課長

○平野克則文化財課長 お答えします。指標についてですが、年度ごとの数字の変化、また、域別の集計や世代別、世帯別については資料を持ち合わせておりませんが、割合が上昇している要因といたしましては、やはり、民俗芸能や文化財の伝承に非常に力を入れている部分もございますし、あとは各地域のコミュニティの事業として積極的に取り組んで

いることがございます。また、博物館や文化財センター等の企画展、特別展等でも地域の文化財や偉人を取り上げた企画をしていることで成果指標の数値が上がってきていると思っております。

○役重眞喜子委員 ありがとうございます。では、地域別の分析は何かの機会にデータをいただきたいと思っております。今の伝統芸能の話もおっしゃるとおりだと私も思っております。郷土芸能、民俗芸能伝承支援事業ということで、いろんな鑑賞の機会を提供されているということなんですけれども、皆さんも御承知のとおり、今、後継者難ということで、子供たちも当然少子化ですが、指導者も非常に高齢化してきているという状況にありまして、ちょっと心配なことが耳に入ってきています。鑑賞の機会を設けるというのは非常に大事なのですが、もう少し実態に入っていくって、こういった努力を今までしてきた方々の意見なり苦労なりあるいは知恵、こういう工夫があるんじゃないかということを書いて施策をもう一步深めて立ち上げていくというようなことが必要かと個人的には思っています。そのあたりは御意見を聞くような機会とかは考えていらっしゃるのでしょうか。

○佐藤勝教育長 はい。平野文化財課長。

○平野克則文化財課長 昨年度、民俗芸能団体を対象にアンケートをとりました。この中の今後の課題の部分なんですけれども、後継者不足であること、あと、構成員の高齢化を挙げている団体がほとんどです。これにつきましてはその通りですけれども、直接、教育委員会が行うのはなかなか難しいところがございますので、今年度の予定ですけれども、文化財審議会の先生方から、民俗芸能の団体の方々と意見交換会をしたらどうかという意見がございましたので、この民俗芸能団体の方々と文化財審議会そして教育委員会との意見交換会をぜひ今年度実施したいと思っております。

○役重眞喜子委員 お願いします。

○佐藤勝教育長 ほかにございますか。なければ、次の学校開放事業以降の施設利用料についてよろしく申し上げます。ございませんでしょうか。

(なしの声)

○佐藤勝教育長 それでは、質疑なしと認め質疑を終了いたします。採決いたします。お諮りいたします。議案第25号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関し議決を求めることについて」を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

(異議なしの声)

○佐藤勝教育長 それでは、異議なしと認め議案第25号は原案のとおり議決されました。次に、日程第3、報告事項に入ります。事務局から報告をお願いします。布臺教育部長。

○布臺一郎教育部長 それでは、報告事項でございます。資料No.1を御参照いただきたいと思っております。平成30年第1回花巻市議会臨時会が8月9日に開催されたものでございます。

議案審議につきまして御報告いたします。下記のとおり議案について提出し原案のとおり可決されました。初めに、平成30年度一般会計補正予算(第3号)でございます。これにつきましては去る6月18日に発生した大阪府北部地震によりブロック塀が倒壊し、犠牲者が出たことから、市全体として市内641カ所の公共施設を調査した結果、13カ所にブロック塀が設置されていたほか、4カ所の市有地もブロック塀が設置されており、合計17カ所の公共施設及び市有地にブロック塀が確認されているところでございます。国土交通省で示している6項目のチェックポイントに基づいて、この17カ所の詳細な点検をしたところ、17カ所全てにおいてチェックポイントのいずれかを満たしておらず、現行基準に適合していないことが判明したため、この対応として補正予算を計上して、撤去等を行うものでございます。教育委員会分につきましては、お示ししておりますとおり、一般行政経費保育園79万2,000円、上瀬保育園敷地内ブロック塀の撤去、それから、文化財187万4,000円、南部たばこ資料館及び花巻城二之丸跡敷地内ブロック塀撤去、以上3カ所の該当がございました。

続きまして、2報告でございます。「花巻市武徳殿敷地内における物損事故に係る損害賠償事件に関する専決処分について」でございます。専決番号第17号と第18号でございますが、どちらも同一の事件でございます。損害賠償理由を御覧いただきたいと思っております。平成30年5月30日、午後7時35分頃、花巻市武徳殿敷地内において、隣接する花巻市立花巻小学校敷地内の立木の枝が花巻市武徳殿敷地内に駐車していた相手方所有の車両に落下し、車両のボンネット及びブルー部分等を破損させたものでございます。専決番号第17号については、専決処分が平成30年7月5日付けでございます。損害賠償の額は15万2,474円。専決番号第18号につきましては、専決処分が平成30年7月31日でございます。損害賠償の額が35万5,234円でございます。以上でございます。

○佐藤勝教育長 第1回花巻市議会臨時会の報告をしていただきましたが、本件について質疑がある方はございませんでしょうか。役重委員。

○役重眞喜子委員 ブロック塀の撤去について、完工予定はいつなんでしょうか。

○佐藤勝教育長 平野文化財課長。

○平野克則文化財課長 文化財課所管分につきましては早急に発注をいたします。そして11月頃までには撤去されるものと思っております。あと、花巻城二ノ丸ですけれども、

ブロック塀を撤去した後に、部外者が敷地内に自由に出入りできる状態になりますので、それについては、簡易フェンスもあわせて設置をしたいと思っております。

○今井岳彦こども課長 上瀬保育園につきましては、これから発注となりますので、なるべく早くということになりますし、あと撤去後はフェンスを設置する予定となっております。8月補正ということですので、本当に早目に対応したいと思っております。以上です。

○佐藤勝教育長 現在、表示はしております。役重委員。

○役重眞喜子委員 臨時会で補正が成立してできるということでもいいんですけども、地震っていつ来るかわかりませんので、こういうのは、まさに通学路とかそういう今々のところに関しては、補正というより、例えば、予備費とか流用とかでの対応は考えられなかったのでしょうか。これは、市全体の枠の中のことでの方針があったかと思えますけど、そういった対応はやっぱり難しいということでしょうか。

○布臺一郎教育部長 ブロック塀の対応につきましては、財務部で一括して対応を検討しておりますし、各部から情報は提供しておりますし、それから、撤去費用のおよその額についても、教育委員会からお示しをしているところでありますが、市全体の対応については財務部のほうで御検討いただいたものと理解しております。

○佐藤勝教育長 いずれ補正でいただきましたので、早急に進めることでお願いしたいと思います。ほかにこの件について質疑等ございませんでしょうか。

○伊藤明子委員 恐れ入ります。武徳殿の車の件ですけども、枝が落ちたと書いてありますけれど、落下とは自然落下でしょうか。それとも、植木屋さんが入って切ったときに落ちたのでしょうか。状況がわからなかったのをお願いいたします。

○岩間裕子教育企画課長 立木の枝の落下ですけども、この日の夜に強風があったということで、枝自体弱っていたものが落ちてしまったということでした。その後、木の状況を確認いたしまして全体的にやはり弱っているようだということでしたので、学校の了解を得て、これについては伐採済みでございます。

○伊藤明子委員 子どもさんに落ちなくて良かったですよね。

○岩間裕子教育企画課長 あと、この案件を受けまして、学校は木がたくさんあるので、人的な被害が出てからでは遅いということもありますので、今、樹木医と委託契約を締結することで進めております。年2回、学校全体の樹木の検査をしていただいて、そこで問題が見られたものについては、造園業者等に処理をお願いしたり、薬剤を注入したり対応

をとることで今動いております。

○佐藤勝教育長 学校敷地内に樹木が多い学校が多くあります。毎月定例で、職員で点検はしているのですが、専門家でないのでよくわからない部分を、専門家に見ていただいて、適正に残すものは残す、切るものは切る、手入れするものは手入れするといったことでやっていきたいと思えます。

○伊藤明子委員 ありがとうございます。

○佐藤勝教育長 ほかにございませんか。

(なしの声)

○佐藤勝教育長 それでは、なしと認め、次の報告、花巻市教育振興基本計画実施計画案について、報告をよろしく願いいたします。布臺教育部長。

○布臺一郎教育部長 それでは、花巻市教育振興基本計画実施計画（案）について御説明申し上げます。資料No.2を御参照いただきたいと思います。こちらの資料でございますが、先ほど御決定いただきました議案第25号と同じく、8月6日に開催いたしました花巻市教育振興審議会において、委員の皆さんにお示しをした内容でございます。

その前に、1カ所資料の訂正がございますのでお願いいたします。資料の8ページ、(6)教育環境の充実のNo.7に学校安全確保事業がございますが、こちらの事業費217万円と書いてありますが、大変申し訳ございません。48万円が正当な金額でございます。それから、担当課は学務管理課と書かれてありますが、学校教育課が正しいものでございます。訂正させていただきたいと思えます。

それでは、4ページをお開きいただきたいと思います。子育て環境の充実でございます。

(1) 子育て支援の充実のNo.1、地域子育て支援センター事業の平成30年度の事業費が4,372万5,000円でございます。No.2の子育て支援情報ネットワーク事業は3万円でございます。No.3の放課後子供教室・学童クラブは2億6,273万2,000円でございます。No.4の第3子以降保育料等負担軽減事業は3,836万8,000円。No.5、病後児保育事業は1,132万2,000円でございます。(2) 家庭教育力の向上のNo.1、家庭教育力向上事業（保護者への意識啓発）は46万6,000円。No.2、家庭教育力向上事業（保幼小の連続性を考慮した保育教育の推進）は18万円でございます。(3) 就学前教育の充実、No.1のはなまき保幼一体研修事業は27万4,000円。No.2の幼稚園教育環境充実事業は9,467万9,000円。No.3、保育所保育環境充実事業は7,046万9,000円。No.4、幼児ことばの教室事業は733万4,000円。No.5、こども発達相談センター整備事業は1,062万8,000円。No.6、公立保育園再編事業は10万8,000円。No.7幼稚園教育指導充実事業は31万2,000円でございます。

次に、学校教育の充実でございます。(1) 学力の向上のNo.1、学力向上推進事業が1,

771万3,000円。No.2、まなび交流学習事業が23万円。No.3、指導運営費1,025万1,000円。No.4、教科用図書採択事業が434万7000円。(2)体力の向上のNo.1、体力向上実践推進事業が22万5,000円。No.2、小中学校スポーツ振興事業が365万円。(3)豊かな人間性の育成のNo.1、児童・生徒表彰事業が93万6,000円。No.2、キャリア学習支援事業が703万7,000円でございます。これは、前年度まで3つの事業に分かれていたものを使い勝手がよくなるように1つにまとめてキャリア学習支援事業となったものでございます。No.3、国際化教育推進事業の小学校の分は2,077万2,000円。これは、前年度までは876万5,000円でしたが、小学校3年生、4年生の外国教育が始まったことに対しましてALTの増員を行うための予算が増えたものでございます。No.4の国際化教育推進事業費の中学校分は1,955万6,000円。(4)個に応じた支援体制の充実、No.1の特別支援事業は6,651万3,000円。(5)学校保健の充実、No.1の学校保健管理費は6,590万6,000円。(6)教育環境の充実、No.1の小中学校学区再編成等調査事業は15万円。No.1の私立高校推進事業は324万円。No.3、県立大迫高等学校生徒確保対策協議会事業補助金は106万4,000円。No.4、小学校施設維持事業は8,145万5,000円。No.5、中学校施設維持事業は2,437万6,000円。No.6、大迫中学校校舎改築事業は9,874万4,000円。No.7の学校安全確保事業、48万円。No.8の育英事業、217万円。No.9の(仮称)学校給食施設整備事業は、予算はございません。No.10の奨学金活用人材確保支援事業は56万5,000円。No.11、学校地域連携推進事業266万円。No.12の小中連携推進事業は11万3,000円。No.13の学校図書館支援事業費は254万7,000円。No.14、小中学校情報ネットワーク強靱化事業は平成30年度の新規事業でございます。学校における情報セキュリティ対策と教職員の多忙化解消のため、グループウェアの導入をはじめとしたネットワーク環境の再構築を行うもので5,452万円の事業費でございます。

続きまして、生涯学習の推進でございます。(1)生涯学習の充実、No.1、生涯学習講座開催事業は2,226万7,000円。No.2、生涯学習活動支援事業は679万円。No.3、読書活動推進事業は736万4,000円。No.4の花巻図書館整備事業は109万6,000円。(2)青少年健全育成の推進のNo.1、青少年活動推進事業は282万2,000円。No.2、少年センター運営事業は363万円。(3)国際化の推進のNo.1、国際都市推進事業は1,825万1,000円。No.2の国際姉妹都市等交流推進事業は1,546万1,000円。国内友好都市交流推進事業は170万2,000円。

続きまして、スポーツの振興でございます。(1)生涯スポーツの推進、No.1の地域スポーツ推進事業は1,669万7,000円。No.2、地域スポーツ支援事業は2,361万6,000円。No.3、スポーツ施設環境整備事業が7,443万6,000円。No.4の田瀬湖ボート場環境整備事業は4,795万7,000円。(2)競技スポーツの推進のNo.1、競技スポーツ支援事業は3,307万5,000円。No.2、スポーツ大会・合宿誘致推進事業746万8,000円。No.3、はなまきベースボールフェスタ開催事業は855万円。

続きまして、芸術文化の振興でございます。(1)芸術文化活動の推進、No.1、芸術文化推進事業36万4,000円。No.2の芸術文化促進支援事業は735万6,000円。No.

3、文化会館の芸術文化推進支援事業は2, 377万5, 000円。No.4、萬鉄五郎記念美術館の美術普及活動推進事業に24万円。No.5、学校文化活動事業に56万円。(2)先人の顕彰のNo.1、賢治のまちづくり推進事業が7, 765万円。No.2、先人顕彰推進事業は321万4, 000円。No.3、宮沢賢治普及・啓発事業1, 140万8, 000円。(4)新渡戸記念館企画展示事業は516万3, 000円。No.5、萬鉄五郎記念美術館企画展示事業は982万円。高村光太郎記念館企画展示事業は159万5, 000円。(3)民俗芸能の伝承のNo.1、民俗芸能伝承支援事業は233万9, 000円。(4)文化財の保護と活用のNo.1とNo.2、文化財保護活用事業2, 374万6, 000円。No.3、埋蔵文化財保護活用事業は3, 465万9, 000円。No.4、博物館の展示活動事業は1, 225万9, 000円。No.5、博物館の教育普及活動事業は218万円。以上でございます。

○佐藤勝教育長 それでは、花巻市教育振興基本計画実施計画案について、区切って進めます。まず、子育て環境の充実について質疑はございますか。

(なしの声)

○佐藤勝教育長 それでは次に移ります。学校教育の充実について質疑はございますか。役重委員。

○役重眞喜子委員 この基本方針の中にあります岩手型コミュニティースクール構想については各地域で取り組みがあるということですが、こちらの考え方と進捗状況と今後の見通しは、どのような形になりつつあるのか改めてお知らせいただければと思います。

○佐藤勝教育長 中村学校教育課長。

○中村哲学校教育課長 答えいたします。今まで、岩手の特徴的な部分を考えて岩手型コミュニティースクール構想を進めてきたところですが、県の教育委員会生涯学習課からコミュニティースクール構想についての説明が行われ、岩手型ではなく、あくまでも文科省で示しているコミュニティースクールの推進を平成34年度までにお願したいという内容でございます。それに向けて、教育委員会と生涯学習課で、同時進行している形で取り組んでおります。具体的、教育委員会では教育振興運動協議会の中で来年度からコミュニティースクールについて研究協議を重ね、具体的な案を進めていくということです。それから、コミュニティースクールの推進に向けて社会教育主事など人材等の確保を行い、事業の具体的な推進をすることで動いているところです。

○役重眞喜子委員 今のお話ですと岩手型はもうやらないのでしょうか。

○中村哲学校教育課長 県からの説明では、岩手型を押し進めると文科省の狙いと若干ずれがあるという話がありました。



○役重眞喜子委員 生涯学習サイド、花巻市の生涯学習課では具体的にはどういうふうな考えで進めようとしているのでしょうか。

○中村哲学校教育課長 そちらのほうで具体的な策というのは申し訳ございませんが確認しておりませんので、後日、確認をしたいと思います。

○佐藤勝教育長 平成34年から県全体でコミュニティースクールを進めるにあたりまして学校運営協議会の設置が前提になりますので、それに伴って規則を作っていかなければならないのですが、それまでやってきた岩手型コミュニティースクール構想につきましても学校マネジメントの指標の設定とか、小中の連携とか、だいぶ定着はしてきました。改善点もあろうかと思いますが、まず、今やっていることをきちんとやることだと思います。

一方で、コミュニティースクールの開始にあたっては、生涯学習課と学校教育課の両方でやっていかなければならないのですが、実際のところ学校教育課から発信していかないとできない部分もあります。受け皿としての社会教育、その辺との連携が必要ですので、いろんな先進地の調査をしながら進めていきたいと思っております。コミュニティーの実態を見ると連携していくのは時間がかかると思います。

それから、教育振興運動とどういった形で連携していくか。教育振興運動は成果もあるわけですが、課題もないわけではないということで、コミュニティースクール構想を進める上で、まず来年度にしっかりした調査計画をしながら着実にやっていくということで考えております。ただ、先行して地域連携型のモデル校指定事業がありますので、そちらから成果を得ながら進めるのも一つ方向だと考えております。

いずれ、コミュニティースクール全部が、メリットがあるわけではないという実践報告もありますので、そういったところも勘案しながら進めなければいけないと思っております。

ほかに学校教育についてございますか。照井委員。

○照井善耕委員 意見になりますけど、事業の中身はこれで良いと思います。ただ、進め方として、例えば、子供たちがテストに向けて一生懸命勉強をして、テストを受けて、何点とったということで終わっている気がします。多分、結果が出たところからどう指導するかだけでも、子供たち自身の課題を明確にして、その後、どうしたら求めるところまで行けるか、個に応じた対応をいかに工夫していくかがポイントになる気がします。それは、部活動の指導でも、中総体に出て何位だったで終わらないで、その後の子供たちとのやりとりで細かく状況分析しながら、次の課題や課題克服のために対応していくことが、肯定感が定着するような取り組みとして工夫できそうな気がしましたので意見としてお聞きいただければと思います。

○佐藤勝教育長 ありがとうございます。それでは、学校教育の充実でほかにございませ

んでしょうか。

(なしの声)

○佐藤勝教育長 生涯学習の推進とスポーツの振興、そして芸術文化の振興まで何かございませんでしょうか。生涯学習とスポーツについては御意見を伺う、あるいは御質問をお預かりする形になろうかと思いますがよろしくお願ひしたいと思ひます。中村委員。

○中村弘樹委員 スポーツの振興の新規事業、はなまきベースボールフェスタ開催事業に「競技者の育成」って書いてあるのですが、この競技者っていうのは、どの辺りの年代を示すのでしょうか。

○佐藤勝教育長 これは、誰も答えられない。恐らく、ここでの競技者の育成というのは小中学生を対象にしたものだと思います。プロを引退した有名選手の方がいらして、試合とか指導というコーチングみたいな場面もありますので。

ほかにございませんか。

○伊藤明子委員 競技者というのはシニアも入ると思われたんですか。中村委員は。

○中村弘樹委員 高校生までと思ったのですが、けれども、プロが高校生を指導するのはやっちゃだめなんですよね。

○佐藤勝教育長 その辺は後から確認します。  
それでは芸術文化のほうで、質疑はございますか。照井委員。

○照井善耕委員 生涯スポーツについてですが、中身はそのとおりとして。私もツーデーマーチで5km歩いてきましたが、健康の維持向上、意識の啓発もですが、3歳ぐらいの子供からお年寄りの方までマイペースに町なかを歩いて挨拶を交わしたり、全国からいっぱい来てますので、そういう人達といろいろお話ししながら歩いたり、いろんな団体も協力していますので改めて良いと思ひました。そこで、例えば、この機会を教育に利用できるという発想でとらえ直してみることも必要かなと思ひました。

以前、校長をやっているときに、ずっと継続してツーデーマーチに出ていた部があったのですが、部の顧問から聞くと、これを単独でやろうと思ったら、人のことや活動する場所の許可を得たりとか大変だけれども、こういう事業をうまく活用すれば、万が一の場合の救護体制もきちんとしているし、それから、子どもたちに5kmコース、10kmコース、あるいは、20kmに挑戦するか選択肢をもってやれるし、いろいろな活用できるっていうことでした。だから、花巻市内でやっている色んな事業を、教育サイドからとらえ直してみ、トライしてみようかという発想で全体の事業にかかわるのもいいんじゃないかなと思ひます。今回も町中を歩くことで文化的な理解を進めるのにいいんじゃないかなと思ひ

ました。

○佐藤勝教育長 ほかにございませんでしょうか。それでは、質疑を打ち切ってよろしいでしょうか。それでは、なしと認め、報告に対する質疑を終了します。以上で、本日の議事日程はすべて終了しました。本日の教育委員会議はこれをもって閉会といたします。大変ありがとうございました。